

『パーキンソン病患者において MAO-B 阻害薬が血糖に及ぼす影響の検討に関する研究』お知らせ

1. 実施目的について

パーキンソン病の治療薬として使用されている MAO-B 阻害薬（薬品名：セレギリン、ラサギリン、サフィナミド）の副作用に、低血糖（血液中のグルコースと呼ばれる糖分が少なくなる状態）があります。低血糖では、空腹感、冷や汗、手足の震え、重症な症状では意識障害が出現しやすくなります。この副作用を予防するためには、患者様の基礎疾患の有無の確認、併用薬（一緒に内服しているお薬）の確認、定期的に採血を実施して血糖値や HbA1c の血糖に関する項目を確認することが重要です。

そこで、医王病院では、患者さんに安全に MAO-B 阻害薬を使用していただくことを目的に、薬剤師が、患者さんのカルテを見て、低血糖となる要因や背景を調査するためにこの研究を計画しました。

2. 実施内容について

方法は、2018年2月から2024年8月末までに、当院で MAO-B 阻害薬が処方された患者さまを対象とします。その患者さまのカルテを調べ、身長、体重、食事摂取カロリー、ADL、併用薬、血糖値、HbA1c の値、インスリン、1,5-AG、グリコアルブミン、Cペプチド、BUN、血清クレアチニン、シスタチンC や採血検査の実施状況を調べます。

カルテを実際に調べる作業を行う期間は、これより2027年3月末までです。

3. 研究代表者

伊藤 朱里(医王病院 薬剤科 薬剤師)

石田 奈津子(金沢大学 医薬保健研究域薬学系 臨床薬学研究室)

4. 調査対象期間

2018年2月1日から2024年8月31日までを調査対象期間とします。

5. 個人情報およびプライバシーの保護について

それぞれの患者さまの個人情報は、個人が特定できないデータに変換された上で、データファイルが作成、保存、分析されます。この研究により、個人情報やプライバシーの漏洩や公開は生じません。

この研究の成果は、個人が特定できないデータとして、学術的な場でのみ公表します。

6. 本研究に関するお問い合わせ

上記のように、個人情報やプライバシーを保護した状態であっても、調査対象となることを拒否される場合、また、この研究についてご質問がある場合には、下記までお問い合わせください。

国立病院機構 医王病院 薬剤科 伊藤 朱里
国立病院機構 医王病院 病院長石田 千穂

